

No.103



愛媛県 青少年赤十字だより

「未来のあなたへ やさしさを」今年度は青少年赤十字創設百周年
子どもたちのやさしさと思いやりの心をさらに育む一年に



愛媛県青少年赤十字指導者協議会

会長 山下 雅彦
(松山市立たちばな小学校長)

青少年赤十字は、今年の五月五日に創設から百年を迎えます。一九二三年に、今の滋賀県守山市立守山小学校で日本最初の少年赤十字団が誕生しました。その後、赤十字の人道・博愛の精神を大切にした活動の輪が、全国へと広がって現在に至っています。

今年度は、「未来のあなたへ やさしさを」というスローガンで、百周年記念活動が行われます。「未来」とは、一秒後から十年後の遠い日までを示し、「あなた」とは幅広く他人や自分を意味します。百周年を機に、脈々と受け継がれてきた青少年赤十字の伝統や、支えてくださった方々の思いに触れるとともに、人の命の尊さ、思いやりの心、協力し合うことの大切さなどについて考えを深める機会となることでしょうか。活動へのご協力をお願いします。

さて、今年度も、コロナ禍の深刻な影響が続いています。十一月の青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会は、残念な

がら二年連続で中止となりました。来年度こそ、皆様とお目にかかれることを願っています。

一方、七月には、昨年度は中止した青少年赤十字指導者講習会と青少年赤十字合同トレーニング・センターを参集方式で実施することができました。指導者講習会では、学校教育と青少年赤十字や防災教育プログラムについての講話、応急手当の実技などの研修を深めました。高校生のみの参加としたトレセンでは、赤十字や防災について学び、相互交流を行うことができました。どちらも規模を縮小した日帰りの日程でしたが、有意義な活動となりました。

また、十一月には、今治市立常盤小学校を会場として、青少年赤十字研究会が初めてオンラインで開催されました。絆をテーマにした全校集会では、体育館と教室をオンラインでつなぎ、参集できない中でも、互いの思いを通じ合わせ、今後の青少年赤十字活動への意欲を高め

ていました。学級活動の公開授業では、授業のねらいと青少年赤十字の理念、実践目標、態度目標との関わりを明確にした指導が行われ、子どもたちが主体的に学び、考えを深め合っていました。常磐小で積み重ねておられる教育実践を通して、子どもたちが、やさしさや思いやりの心を高めている様子が分かりました。分科会での一本松小、三津浜小の実践に基づく提案や指導助言、文部科学省の教科調査官安部恭子様の講演も大変勉強になり、意義深い研修となりました。常盤小の大澤校長先生をはじめ先生方、ご指導をいただいた先生方、愛媛県特別活動委員会の先生方、ご尽力賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

青少年赤十字では、子どもたちが人道的価値観を身に付け、主体的に行動できる、自立した個人として成長することを願っています。これは、学習指導要領の目指す方向と合致しています。日頃の学校や園での生活を青少年赤十字のフィリターを通して評価することが、青少年赤十字の活動となります。子どもたちの育成と、学校・園の運営に、今後とも青少年赤十字を活用していただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、ご支援いただいた日本赤十字社愛媛県支部をはじめ、関係者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、青少年赤十字活動がより活発に展開されますよう皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

《指導者協議会総会・研修会》

四月二三日（金）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催予定でしたが、文書審議で会計報告や役員改選等について実施しました。

《高校生連絡協議会～春の総会～》

五月二二日（土）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催予定でしたが、文書審議で会計報告や役員改選等について実施しました。

《リーダーシップ・トレーニングセンター

指導者養成講習会に参加して》

愛南町立一本松小学校 好岡 達也

「学校は『社会化』を学ぶ場所だ。」という言葉がありますが、学校教育に青少年赤十字の理念と合わさったフィルターをかけると、それが具体的な指導として現れてきます。

例えば、学級集団におけるすべての児童がリーダーシップを発揮して個を生かす活動や、地域社会において、想像力を働かせながら自分が属するコミュニティに役立つ体験活動を教育課程に組み込むことは、児童の人間性や社会性を高めることにつながります。

JRCのリーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会では、講義やワークシヨップ等の活動を通して、実際に学校現場で役立つ多様な方策や児童が活動に取り組む際の視点について学ぶことができました。特に印象的だったのは、ボランタリー・サービスの基本となるニーズの気付きに向かわせる仕掛けに情報交換の場を設定することでした。目に見える課題だけではなく目に見えない身の回りの課題を主

体的な態度で理解する「掲示板」等の実践は、学校現場で取り入れたいと思えるものの一つでした。

また、青少年赤十字活動の視点で行う教育活動に関する取組の工夫について、全国の先生方との意見交換や情報交流ができたことは、自分にとつての大きな成果です。主体的に「気付き」「考え」「実行する」児童を育てるため、私たちの「待ち」の姿勢を念頭に、今後二年間にわたる本校の研究推進に生かしていこうと思います。

《指導者講習会》

七月二六日（月）松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で開催し、各校種から十名の参加がありました。

例年では一泊二日でプログラムを実施していますが、今年度は日帰りで開催しました。

《参加者の声》

今治市立菊間中学校 教諭 長橋生樹

講習会での生活では「気づき」「考え」「実行する」ことをテーマに進められており、自分で考えて、全体のために行動を起こすことが大切だということを学んだ。これは自分のクラスでも良く言っていることであり、社会に出ていく子どもたちにもできるようになつてほしいことなので、まずは教員である私自身この心がけを常に意識して生活すべきだと改めて考えさせられた。アイスブレイクでは様々な活動を教えていただき、授業で活用できるものが多くあるなと感じた。以前常盤小学校の研修会に参加したときに教えていただいた、新聞紙タワーや避難するときに持つて行

くものをグループで協議し合う活動は今でも一年に一度学活で活用しているので、今回教えていただいた活動も授業で活用していきたい。

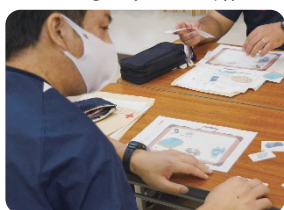
赤十字について学校で指導していく中で、より効果的な指導のためのポイントについてのお話が印象的であった。教員側から考えるテーマや手段について提示するが、基本的には子どもたちが自ら気づいたり、成果を実感させたりすることが大切だということを学んだ。そのためにも、子どもたちへの評価や適切な助言、新鮮なアイデアなど、タイミングとポイントを考えて、こちらからパスを出してあげることも大切だと感じた。

今年度は今治市の青少年赤十字部会の長をさせていただいているので、この一年、今日学んだことを生かしていきたい。

今日一日参加してみても一番思ったのは、役員の方や講師の方の話がとてもおもしろかったということです。赤十字の魅力がしっかりと伝わってきました。また機会があれば、講習会にぜひ参加したいと思います。

松前町立松前小学校 教諭 村上秀美

赤十字の活動がどういったものなのか、よく分からずこの研修に参加しました。赤十字活動の中にある青少年赤十字の活動を学校現場で行う理由がよく分かりました。先生方のお話を聞いていると、とりわけ特別なことをするのではなく、自分が普段気を付けてい



ることの延長上にあることを大切にすることだと知り、少しほっとしました。様々なアクティビティは学級にいる子ども達と一緒にしたいなと思いましたし、防災の内容は改めて家族で話し合おうと考えさせられました。身近なものを使つての応急処置では初めて三角巾を使いました。何も知らなかったら適当にまいてしまいましたが、布の強度や動かしやすさなど考えられているんだなと思いました。いざ!!という時、自分がすぐに行動をできるか不安はありますが、何も知らなかった昨日よりは今日学んだことを活かしていけるかな...と思います。”気づき、考え、行動する“この3つは学校現場だけでなく、人との関わりの中で大切なことだと感じる事ができました。今日は貴重な時間をありがとうございました。



《高校生・中学生・小学生

合同トレーニング・センター》

七月三〇日(金)松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で開催し、四校から十八名の参加がありました。例年では二泊三日で、異学年合同のプログラムとなつていますが、今年は日帰りで高校生のみでの実施となりました。

《参加者の声》

愛媛大学附属高等学校 二年 蔭山心暖

ずっとこの日を待っていました。同じくらいの年の高校生が集まり、何か話を聞いて帰るのかなと少し思っていました。HRやグループワークが多くて、

非常に楽しいときとなりました。

ただ、楽しいだけでなく、その楽しさの中に学べる事が多く散りばめられていました。

まず一つは、自分の考えの表現です。アイスブレイクでは何げなく自己紹介をしましたが、「もしくだったら」「実は○○なんです」など、自分にしか言えないことを考えて皆に発表するのは、自分の考えの表現の一つであると感じました。

二つ目は、周りを見る力です。チャイムや合図がなく自分から行動することはもちろん、机やイスを動かすとき、周りを見て自分にできることはないか、どうしたら他人のためになれるかと考えることも学びました。

そして三つ目は、防災についてです。HRとは違う新しいメンバーで、「明日、南海トラフが起こったら」について考えました。想像することは多々ありますが、紙に書き出してみると、今まで見えてこなかった課題が山ほど出てきました。実際に、災害が起こってしまったら、自分でも想像できないほどパニック状態になるはず。だから緊急時でも落ち着いて行動できるようにしっかりと事前準備することが大切だなと感じました。しかし、準備するのは防災のことだけではありません。常に未来を見て、万全に備えたいです。

今日の経験が無駄にせず、今後にしっかりと活かしたいです。



愛媛大学附属高等学校 二年 昇みなみ

今日のトレーニング・センターでは、普段の生活で

は気づきにくいところや改めて大切ななと実感するところがたくさんありました。

初めのアイスブレイクでは、お題が同じであってもそれぞれ書くものは違い、自分と他人とは考え方や常識が違うのだと実感しました。当たり前のようでそれを実感できておらず他人を傷つけてしまう人もいると思います。それを防ぐためにも将来、人と良い人間関係を築けることにつながる大切な事だと思いました。

今日行つた活動の中で一番印象に残っているのは、ワークシヨップです。この時間では防災について学ぶことができました。私たちはこの愛媛県や周りの県に住んでいる限り必ず南海トラフ巨大地震の被害にあいます。頭の中ではそのことを分かっているが他人事と考えるとしまっていました。ですが、目黒巻などの活動を行つて今の自分の課題がたくさん見つかり、きちんと備えをしなければならぬことに気づくことができました。備えをしていても想定以上のものがくるため、日々イメージして行動することが大切だと先生がおっしゃっていて、備えはするのとしなのでは大きな差が災害の際は出てしまいます。そのため、全ての自分の責任であることを常に頭において、地震に備えられるようにしたいと思いました。

今日のトレーニング・センターでは、本当に楽しく過ごすことができました。気づき、考え、実行するをこれからの生活で活かし、充実した高校生活を送れたらいいなと思います。



第六三回青少年赤十字研究会を終えて



今治市立常盤小学校

校長 大澤 誠二

十一月五日、さわやかな秋空の下、研究会を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインによる開催となりました。本校に参集することもできず、大変残念ではありましたが、遠くは埼玉県、山口県など、県外からの参加も含め、県下各地より百名近くの皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

さて、本校は令和二年度より研究校の指定を受け、「つながり合い、絆を深め、よりよい学校生活を主体的に創造する児童の育成」を研究主題として取り組んでまいりました。

研究推進に当たっては、特別活動を核とし、主題にせまる授業、学校行事、学校生活となるよう、それぞれの活動をJRC活動に意味付けた活動を行ってまいりました。

「日々の生活の中にJRC活動はあります。子どもとともに、教職員一同、取り組んでまいります。」と閉会



の挨拶でも述べましたが、子どもたちを取り巻く環境・生活をJRC活動の視点で見直し、振り返り、改善していくことが、今後更に重要になってくるのではないかと実感しております。

今回、貴重な研究の機会をいただいたことでたくさんの学びがありました。私たちをご指導くださり、支えてくださりました関係者の皆様にお礼を申し上げ、結びとさせていただきます。ありがとうございました。

研究主題の概要

《研究主題》

つながり合い、絆を深め、
よりよい学校生活を
創造する児童の育成

《研究の内容》

- 一、つながりを育み、よりよい学校生活を送るためのアイデアを創出する力の育成
 - ・つながりを育む学級、学年、異学年の集団活動の工夫
 - ・JRCの理念「やさしさ、思いやり」を大切にされた校内風土づくり
 - ・JRCの態度目標「気づき、考え、実行する」を大切にされた委員会活動や学校行事の充実
- 二、仲間と協働して主体的に学校生活を創造する力の育成
 - ・JRCの態度目標「気づき、考え、実行する」を意識した学級活動（一）の工夫
 - ・JRCの態度目標「気づき、考え、実行する」を意識した学級活動（二）（三）の工夫
- 三、学級活動での話し合いで決定したことを実践する場や教師の働きかけの工夫
 - ・活動や過程を振り返り、次へ生かす力の育成
 - ・活動や過程を振り返る掲示の工夫
 - ・学級活動を振り返り、次へ生かすための評価カードの工夫

・指導に生かすための教師の振り返りの充実

《研究の成果》

- 一、学年間の縦、横のつながりを意識した活動ができるようになった。
自分たちの役割を果たし、工夫しながら活動する楽しさや達成感を味わうことで、自己肯定感や有用感を高めることがつながった。
 - 二、積極的に話し合い活動に参加しようとする児童が増え、多くの児童が自治的な運営やその楽しさを知ることができた。
 - 三、各学級の物語や評価の「見える化」により、次の課題解決に生かすことができた。また、評価の蓄積にもつながった。
- ### 《研究の課題》
- 一、より主体的で深まりのある活動にしていいため、環境や活動のマンネリ化を防ぐ工夫をしたり、児童の振り返りや評価を生かしたりしながら、児童から、常に新しいアイデアを引き出していきたい。
 - 二、話し合い活動における合意形成や集団決定していく力をさらに高めるための工夫や指導の改善が必要である。
 - 三、評価規準についての見直しが必要である。また、教師の振り返りの充実や「キャリアパスポート」の活用についても、共通理解を図った上で計画的に取り組んでいきたい。

研究会報告

今治市立常盤小学校

一【集会・公開授業】

○児童集会

「絆・あいさつ・仲よし・助け合い」

日本一の常盤小を目指して

六年生の児童が中心となって、オンラインで青少年赤十字中間発表会を行った。JRCの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に合わせ、三グループに分かれて活動してきた各委員会が、今後更に常盤小をよりよい学校にしていこうための提案を、分りやすく全校に発信した。また、「わくわくの木」に書かれたキーワードをもとに、自分たちの学級で取り組みたい目標について話し合い、ピンゴゲームを通して、楽しみながら伝え合うことができた。

○三年学級活動(1)

「四年一組とペア活動をしよう」

学級の議題ボードに書かれていた議題で、「四年生との仲が深まり、みんなが笑顔になる」という提案理由に沿って活発な話し合いを行った。互いの意見を聞き合い、折り合いを付けながら合



意形成を図るため、キーワードマークを用いて話し合いを進めた。相手の立場を考えながら、内容や盛り上げるための工夫について話し合う姿から、自分もみんなも大切にする姿勢が感じられた。この姿勢が、温かな学級風土の醸成につながるものであるということをも、改めて実感した。

○五年学級活動(2)

「自分の大切な命を守ろう(防災)」

大雨による被害から命を守るための方法を考え、実践しようとする態度を育てることをねらいとして授業展開した。導入(つかむ)では、児童に、身近にある蒼社川の氾濫を実感を持って「自分事」として捉えさせるため、アンケートや地点別浸水シミュレーション検索システム、実際の画像等を用いた。そして、事前に作成しておいたイメージマップを基に話し合い、自分の行動目標を決定した。防災教育は、家庭との連携が不可欠である。事後の指導や活動につながるワークシートを活用し、「為すこと」によって学ぶ」場の確保にもつながった。



二【分科会】

○第一分科会

教育課程の実施に青少年赤十字をどう生かせばよいか

愛南町立一本松小学校の実践を受けて、情報交換を行った。タブレットの活用や校内、地域でのボランティア活動についての実践例や課題等について意見が出された。

青少年赤十字の実践目標及び態度目標は、新学習指導要領と結びつくものがある。子どもたちが、将来、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を養う上で大いに役立つものである。変化の激しい昨今だが、これまでの教育活動を青少年赤十字の視点から、再度整理していくことが大切である。

○第二分科会

地域一体となった児童生徒の育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

松山市立三津浜小学校の、地域と一体になった様々な取組が紹介された。地域の特性やつながりを生かしながら、児童の主体性を育むことが大切である。

地域での児童の好ましい姿と地域との協力・連携が相乗効果で児童の意識を育てる。児童の意識の中で一貫した青少年赤十字の理念を位置付けることで、地域のよさを知り、地域とつながり、地域に尽くす児童が育っていく。

三【全体会】

○指導助言 赤松聖則指導主事

(愛媛県教育委員会義務教育課)

特別活動を軸に、①つながりを大切にした教育活動の充実②子どもたちによりよい学校生活を主体的に創造させる場の充実を目指した特色ある取組であった。これらは、子どもたちの自主的自立的な生活態度や共にリーダーシップを発揮する集団づくり、さらには、青少年赤十字の人道の精神へとつながっていくものである。今後も赤十字の持つ人材、施設、情報等を活用しながら、各学校の実態に応じたよりよい教育活動に取り組んでほしい。

○講演 安部恭子先生

(文部科学省初等中等教育局)

「今こそ、特別活動の充実を！」互いを尊重し合う学級・学校づくり」

コロナ禍における様々な実態調査や実践事例を紹介してくださり大変興味深かった。また、学習指導要領とも関連付けながら「個別最適な学び」と「協働的学び」の一体化の重要性や、特別活動の充実の必要性と育成すべき資質・能力について分かりやすくお話いただいた。このような時代だからこそ、特別活動を工夫して実践することが大切であることを再認識させられる、非常に有意義な講演だった。

《指導主事対象研究会》

(WEB)に参加して》

愛媛県教育委員会義務教育課

指導主事 赤松聖則

「魔法の言葉を紹介します。それは、『気づき、考え、実行する』です。」

これは、九月三十日に参加させていただいた標記の研究会で、講師の先生がおっしゃった言葉です。私がこの言葉に初めて出会ったのは、教師になつて間もない頃でした。自分が何となく考えていた育てたい子供の姿をびたり言い当てていると、強く印象に残ったことを今も鮮明に覚えています。

本研究会では、JRCの態度目標であるこの魔法の言葉どおりの試行錯誤しながら生き生きと活動し、仲間と協働しながら伸び伸びと成長していく子供たちの姿がたくさん紹介されました。JRCの活動には、これをしなければならぬといった義務的なものはありません。学校における様々な活動を「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の視点で捉え直すことで、日々の教育活動に新たな価値を与えることができます。研究会を通して、改めてJRCの取組の奥深さと、可能性に魅力を感じるとともに、魔法の言葉は教育の質を向上させる身近で有益な活動の指針になることを再認識できました。

赤十字社には人材、施設、知識、技能などの多様な資源があります。それらを有効活用すること、で、

教員の負担を減らしつつ、教育効果を上げることができません。県教育委員会といたしましては、今後も各学校がこの資源を活用させていただきながら、教育目標の具現化を図ることができるよう、活動の周知や理解推進に努めて参りたいと思います。

《高校生連絡協議会～秋の総会～》

一〇月一六日(土) 日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、高校生連絡協議会「秋の総会」を開催し、六校から十二名の参加がありました。

昨年同様、密を避けるために各校からの参加人数を制限し、終日から半日開催に変更して実施しました。

最初に学習「防災教育プログラム」でボランティアの心がまえについて考え、理解を深めました。ワークショップでは「災害時シミュレーション」で災害時の備えについて話し合い、発表しました。いつ起こるか分からない災害について学び、考え、備えることの大切さに気づいた一日になりました。



《青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会》

一月二十日(土) 松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で開催予定でしたが、オンライン活用状況調査票の提出及び、報告書の作成で代替となりました。

《青少年赤十字創設100周年直前

令和3年度青少年赤十字

スタディー・プログラム参加者ガイド》

従来、本事業は、四泊五日で山梨県山中湖村「東照館」で開催する「スタディー・センター」として、県内高校生メンバー二名が参加するものですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き二日間のWEB開催となり中学生一名、高校生二名の計三名のメンバーが参加しました。

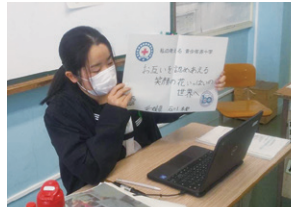
今治市立西中学校一年 石川 未都

私は、スタディー・プログラムに参加して多くのことを学びました。愛媛県の代表として参加したのでとても緊張しましたが、全国の仲間と意見を交換し、勉強することができました。私が一番印象に残っていることは、防災について学んだフィールドワークです。

「大きな地震が起こった時、何を持って避難するか」という課題について、私は必要最低限の水や食料を持っていれば助かると思っていました。し

かし、全国の仲間が、家族の写真は必要だと教えてくれました。自分の命が助かることだけを考えていましたが、行方不明の家族を探すためには写真が必要だと気付くことができました。また、多様な意見を交換し合ったことで、自分の自信につながりました。

私は、このプログラムを通して、お互いを認め合える、笑顔の花いっぱいの世界にしたいと思いました。お互いを認め合うことで笑顔の花が咲き、世界中の人々がより高め合えると思ったからです。青少年赤十字の態度目標にある、「気づき、考え、実行する」ことを実践し、学校や地域が笑顔になるように、これからも頑張つて働き掛けたいと思います。



新田高等学校二年 清川 創汰

私は「青少年赤十字創設100周年直前スタディー・プログラム」に愛媛県代表として参加しました。

参加して最も心に残ったことは、「人の意見を尊重しよう」ということです。プログラムの中は、さまざまな意見を聞くことができました。学校内での不登校やいじめの問題などの身近な問題から、一人でもできる方法で関わりを持ち、次第に地域社会の問題、世界の問題へと協力の輪を広

げていくなど、私が考えてもいなかった積極的で建設的な意見が数多くありました。自分の考えに固執せず、柔軟に人の意見を取り入れて考えを深めることが必要だと感じさせられました。

HRでも、多少理不尽なことがあっても自分の意見を言えなかった、誰かが困っているのに声をかけることができなかったなどの意見が出され、行動へ移すことの難しさを感じました。話し合いの結果、「みんなの意志をリスペクトする」「仕方がないで終わらせない」「常に周りを気遣う」という、行動に移すことが重要だという自分たちの赤十字の理念をHRで確認することができました。

私は人見知りが強く、私以外は女性のHRということもあって大変緊張しました。しかし、2日目にはフィールドワークで意見を発表したり、HRで司会をしたりして積極的に参加できたと思います。自分ができることは何か改めて考えるきっかけを得ることができ、大変勉強になりました。



新田高等学校二年 有江 まゆき

今回、私は愛媛県代表として2日間スタディー・プログラムに参加しました。

「リーダーとコミュニケーション」では、偏見な

く皆の意見を大切にすることや話しやすい雰囲気づくりがリーダーの大切な資質だと学びました。確かに、自分の意見を主張できても、自己中心的では良いリーダーとは言えません。他者の意見を尊重し、全体を考えてコミュニケーションをとることが、リーダーの大切な役割だと実感しました。

「青少年赤十字のこれから」では、私は「自分自身を鍛え、学校・地域・日本そして世界で困っている人を助ける活動します」と誓いました。周囲の目を気にして行動をしないのではなく、自ら行動することが大切だと感じたからです。

「活動宣言」では、私は「困っている人を助ける」と宣言しました。シンプルかもしれませんが、『気づき・考え・実行する』のスローガンに従い、勇気を持って人と関わっていくことが重要だと考えたからです。自ら積極的に行動し、思いやりの輪を広げるために活動していこうと思います。

私は人前での発言やリーダー的な役割を果たすことは苦手でした。しかし、今回はHRで積極的に発言したり、司会を行ったりすることに挑戦しました。挑戦することで、自分が成長したような気がします。これからも何事にも積極的に挑戦し、行動していきたいと決意しています。



令和4年度 事業計画

四月	県指導者協議会総会・研修会（日赤支部）
五月	青少年赤十字創設100周年オープニングイベント（WEB） 第一回指導者協議会常任委員会（日赤支部） 高等学校指導者協議会（日赤支部）
六月	高校生連絡協議会く春の総会く（日赤支部） 賛助奉仕団総会（松山市内）
七月	全国指導者協議会総会・研修会（東京都） 全国賛助奉仕団協議会（東京都） 指導者講習会（松山市内）
八月	小中高合同トレーニング・センター（松山市内） 第二回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
一〇月	高校生連絡協議会く秋の総会く（日赤支部） 中・四国ブロック指導者協議会（島根県） 中・四国ブロック賛助奉仕団協議会（広島県）
十一月	青少年赤十字創設100周年記念国際交流事業（東京都） 第六四回青少年赤十字研究会（愛南町立一本松小学校）
二月	青少年赤十字創設100周年記念愛媛県大会（松山市内） 第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
三月	高校生スタディー・センター（山梨県）



青少年赤十字創設100周年！

令和4年は青少年赤十字が創設されて100周年にあたります。

全国的に様々な取り組みが行われる予定となっておりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

【新規加盟校・園(所)】 ※(再)は再加盟

愛媛県立新居浜商業高等学校（再）

発行・編集

愛媛県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社愛媛県支部

〒790-0854 松山市岩崎町二丁目3-40

TEL 089-921-8603 FAX 089-932-9160

<http://www.ehime.jrc.or.jp/>

（発行日 令和4年3月31日）

令和3年度

青少年赤十字加盟状況

校 種	校 数	メンバー数
幼稚園・保育所	72園	7,515名
小 学 校	177校	47,373名
中 学 校	54校	14,162名
高 等 学 校	13校	843名
計	316校	69,893名